

---

編集員も汗をかきます!

～デジタルプラクティスの論文の質の向上に向けて～

---

NEC 中央研究所

中田 登志之

# デジタルプラクティスの論文の特徴

- 目的 <http://www.ipsj.or.jp/15dp/dp-index.html>
  - 様々な実務の現場におけるIT実践の中で積み重ねられる創意工夫, 新しい利用法, 経験から得られる教訓などを論文の形にして社会全体で公開共有し再利用すること。

## 論文誌, 学会誌, デジタルプラクティスの比較

論文誌	学会誌	デジタルプラクティス
研究者に研究成果発表の場を提供	会員に技術動向等の情報・知識を提供	非会員を含む実務家に社会的に有用な実践や経験を半永続的に共有・公開する場を提供
プロダクトアウト, 投稿論文の選別	企画によるコンテンツ重視	マーケットイン, 投稿者・読者サービス重視
1つの論文は比較的狭い技術範囲にフォーカス	先進的分野または特定分野の横断的な解説記事, 学会行事, ニュース, 各種情報の要約等	複数の論文と, 周辺支援記事や情報による立体的な編集
新規性と有用性を重視	客観性, 中立性, 網羅性を重視	社会的有用性を重視
普遍性のある学術的な課題		実務における具体的な課題
論文特有の学術向け文体・構成	広汎な分野の会員にとって読みやすく分かりやすい記述	編集委員会が文体や構成を校正, 著者と共同推敲

---

# 共同推敲プロセス

## ■ 目的

- 論文執筆に不慣れな著者にとって執筆投稿の敷居を下げることと、読者にとって採録論文の読みやすさを向上させること

## ■ 編集担当が1名専属について、最大6週間をかけて、共同推敲を行う。

- 編集担当は著者からの相談を受けつつ著者の改訂作業を支援，補助する。主として表現が適切かつ十分になるように改訂を手伝うが，必要と判断した場合は内容についても改訂を手伝う。

# デジタルプラクティス論文の理想的な構成

<http://www.ipsj.or.jp/15dp/shippitsu/outline-guideline.html>

- 背景・課題
  - あなたの会社，部門が抱えていた課題を読者が共感できるように，具体的に記述してください。
- 解決方法
  - 上記の課題を解決するために，採用した手法を具体的に記述してください。
- 実践（適用結果）
  - ここでいう「実践」とは，あなたが仕事で向き合った課題に，あなた自身あるいはあなたのチームがどのように向き合って解決したか，その日々の行動を指しています。特にやってみてはじめてわかったこと，理屈ではこうなるはずだったけどやってみたら違ったことなどの実際の経験を記述してください。
- 結論
  - 課題，解決方法，実践を簡単に振り返ってください。

# 編集担当が留意する点

- 論文としての構成
  - 前スライドに書いてあるようなストーリーになっているか？（必ずしもそれに縛られる必要は無い）
- 読者にとって有用な情報が記されているか
  - 単なる解説記事になっていないか等を吟味
  - 自分が知りたい点などを要望（編集担当特権？）
- 読み易さ（自分が読者になったつもりで）
  - 論理的なつながり。（飛躍がないか・著者の思い込みが読者に読み取れない場合など）
  - 長すぎる文の調整、主語・述語の不一致など

# 本当に効果があるの？ 著者へのアンケート

- 共同推敲を実施して良かった？
  - 良かった 14 ⇒再度投稿の時も共同推敲を
  - 悪かった 1 ⇒受けたくない
- 共同推敲という制度を知って、どの様に感じられましたか？
  - 良い制度 14
  - 特に何とも 1
- 何度くらい共同推敲のやりとりをされましたか？
  - 3回 6
  - 4回 2
  - 5回 4
  - 6/8/10 回 1
- その回数は多かったですか？
  - 多かった 1
  - 適当 12
  - 少なかった 1
- 共同推敲で、大幅に添削されたことがありましたか？
  - 在り 8⇒ 大変と思った 2 参考になった 6
  - 無し 7

## 共同推敲再度受けたいか/良かった点 (代表的意見)

- 読み手への気配りを深耕できるため
- 客観的な立場からの意見が頂ける。
- 普段の業務では論文を書くというが認められていないので、慣れることはできず、また同じ結果になる危険性があるため。
- 論文の構成に対する専門的な知識がないため、客観的に確認していただけるととても助かります。
- 短期間で効率のよい改定が行えた。
- せっかく投稿するのですから、価値ある論文に仕上げたいと思いますので、また共同推敲させていただきたいと思います。
- 再度の機会はずっと想定しづらいのですが、普段、論文を書く機会がない小職のようなものには良い制度だと思います。

## 共同推敲再度受けたいか/良くなかった点

- 共同推敲自体には問題はない。しかしDPの論文テンプレートには時代錯誤の問題が多いと認識している。
  - オープン化がすすんだ21世紀に一私企業のフォーマットしか受け付けないのはナンセンス。
  - また、Word文書での入稿はもうひとつ問題があり、論文の内容だけでなくDTPデザインまで執筆者の仕事になるのは本来の論文執筆以外の部分で時間をとられすぎて大いに無駄である。
  - ぜひTeXや、TXT、ODFといった自由なフォーマットの採用と、執筆内容とDTP作業の分業をお願いしたい。
  - プロとしてお金をいただいて執筆する一般の技術記事で、ここまでDTPについて著者がしなければならないという条件は見たことがない。
  - この状況では、学術以外に主たる業務をもっている人のDP用論文執筆者が増えることはないだろう。
- 作業負荷が高く、何の価値も見出せなかった。

# 論文への影響（読み手への気配り）

共同推敲を実施して、論文や考え方がどの様変わったと思われますか？	何故変わったと思われますか？
自分の主観が必ずしも、読む側に伝わりやすいとは限らない点 が、論文に散見され、特にその部分を中心として、素晴らしい推 敲を受けれたと思う。	読み手への気配り不足
必ずしも予備知識のない読者を想定して原稿を執筆するよう に心がけましたが、それでもなお、第三者の目から見て、わかりに くいところ、掘り下げが十分でないところなど指摘いただくことが でき、読んでもらうための論文という視点を明確化できたと思 います。	上述の通り、読み手の目線に立った助言をいただく ことができたため、と考えております。
DPの場合、専門領域が絞られたテーマになるので、ある程度 読者を限定した書き方をしてしまう傾向があります。私の場合も そのような指摘を受けて修正を行いました。DP本来の狙いは、 ある領域の技術成果を他の領域に展開して活用していくこと であり、その主旨に沿えば、共同推敲の過程は、その気づきと 与えてくれるものだと感じました	専門領域で閉じた活動をしがちなので、領域外の読 者を想定した表現を意識するようになりました。業界 用語には特に気をつけています
如何に解り易い表現が重要であることを教えて頂きました。	
読み手に伝えることの重要性を認識できたこと。	筆者以上に筆者の言いたいことを引き出して整理し、 「読み手に伝える」という観点で、論理的な文章の組 立から言葉の使い方まで丁寧に指導いただいた。 共同推敲という「場」で揉むことにより、発見があり、 再考するというスパイラルループができたため。

# 論文への影響（読み手への気配り）

<p>自身のみで考える時より、読み手にとってわかりやすいシナリオになったと思う</p>	<p>どうしても書き手は言いたいことを書き尽くそうとするが、読み手から見ると絞られた（本当に伝えたい）内容をわかりやすく読み取れれば良く、それを客観的に指摘してくれたから。</p>
<p>よりわかりやすい誤解のない表現に近づいた。</p>	<p>専門でない方のチェックを受けることにより、思いもかけない解釈があることに気がついた。厳密な言葉の選択が重要であることに気がついた。</p>

# 論文への影響（論文としての書き方）

共同推敲を実施して、論文や考え方がどの様変わったと思われ ますか？	何故変わったと思われませんか？
客観的な立場から評価して頂き大変参考になった。	文章内容は、自分が理解できるレベルで執筆を してしまうが、客観的な評価が大変参考となった。
論文を書くことについて未経験だったため、フォーマルな論文の書き 方について勉強することができた。	それまで意識外のことであったが自分のこととし て考える機会をえたため。
論文が他の一般的な資料とは構成とは異なり、論理展開をするうえ での模範的手法があることを学びました	共同推敲をしていただき、より論理展開がわかり やすくなったため。
論文作成として未熟な部分を指摘いただき、アドバイスいただけたこ とが良かった。	論文として数値化する部分や読者にとって分かり づらい表現が分かりやすくなった。
論文の「芯」をしっかりつくり、シンプルな文書で表現することが大 切だと改めて、感じました。	近年のビジネスシーンでは、パワーポイント等プ レゼンテーションツールを使って自身の思いを言 葉で伝えることが多く、文書で何かを伝える力が 落ちているな…と感じました
論文についての常識を持っていなかったため、ルールや形式を教え ていただいた。永い間、部下や後輩の文章を添削することばかりで、 自分の文章を添削されたことがなかったので、非常に新鮮な印象を 持ちました。懐かしく、嬉しく感じました。また、自分では自明のこと とっていた論点の根拠を要求されたことが勉強になりました。研究の 姿勢のあり方を学ぶことができました。	推敲者の真摯な姿勢が伝わってきて、心を動か された気がしました。当り前の考察ですが、推敲 者との信頼関係が考え方を変えたのだと思いま す。
普段、論文作業をすることがないため比較ができず、また、どの程度 のものなら論文として耐えられるのかがわからなかったため、共同推 敲で判断いただいたような感じです。また、第3者の視点が入る機会 があるのは、今回は+に作用したと思います。	

## 論文への影響(否定的意見)

骨子は変わらないのに、細かな文書フォーマットの指摘や、言い回し等に終始され、多大な負荷となった。

論文の骨子／考え方は変わらない。DPの趣旨に賛同して執筆をしたのだが、結局、お役所仕事の対応に嫌気が差し、DPに対する印象が悪くなった。



## 共同推敲への注文

不慣れであることを前提に論文のスタンダードな体裁から意識するようなフェーズがあるとよかった。なかったために論文には適当でない内容になり大幅な手戻りが発生することになった。また最初のコンセプト決定については対面での打ち合わせが望ましいと思った。これが無かったのも大幅な手戻りの一因である。

ディスカッション形式。

細かな文書フォーマットの修正や文書作法については、DP側で吸収してもらいたい。

発行者側の意図があるのであれば、回りくどい言い方でダメ出しをするのではなく、そのように直してもらって、執筆者側でそれをレビューする形式の方が効率的。<=結構この手段を執っている編集担当者も多いです。

この種の論文は、かなり狭い専門領域に関するものであるため、より踏み込んで、理論的解説の妥当性などにも言及していただければ、さらに有難かったと思います。なかなか難しい希望かもしれませんが。

メールのやり取り中心でしたがお電話や直接お会いしての打ち合わせの時間をいただけるとより良いと思います。

推敲の過程がオンライン化できると時間短縮が可能では。

多忙な方が多いので、IPJSJのサーバーで共同編集できるような形態を期待しています。

共同推敲する前に一度、論文の作成の意図を作者から推敲者様に説明する機会があると更に良いと思います。

## 共同推敲をしたら、どういう所を注意する？

- 読み手への気配り=>アンケート同じ事何度も聞いている。
  - ごめんなさい。
- 同じ業界の人との組み合わせでない方が参考になると感じます。
- テキストベースのフォーマットを使い、バージョン管理システムによるデータの共有を行い密な連携をすすめる。
- やはり、予備知識の十分ではない読者にも理解可能な論文とすること、事実を正確に記述すること、オリジナルな発想の記述なのか、他者の引用なのかを明確にすること、などを念頭に置いて実施したいと思います。
- 論文を読む側の方が、執筆者並みの知識を持っていないという前提に立ち、難解な専門用語が使用されていないか、論理展開がわかりやすいか、という観点で確認していきます。
- より広い読者に役立てるよう、横展開の可能性を高めるよう留意したい。
- 論文の作者の意図を十分に確認してからその背景を考慮して指導する。
- 当該フィールドの知識・経験。執筆者との相性で編集担当を選定する。筋立てから各論へ、抽象から具体へ、順序だてて実施する。

## 共同推敲をしたら、どういう所を注意する？

- 読者に対して何をメッセージするのがいいか、どの部分が価値ある取り組みなのか、ナレッジなのかを明確化しながら進めるのがいいと思いました。
- 骨格となるシナリオとわかりやすさ。
- 全体的に、どういう流れで論を立てるか？を相互確認して、論文の全体構成を仕上げ、その後に個々の表現、事象の説明について推敲していくのが良いかな？と思っています。
- 私も2回編集担当をやりました。この時に思ったのは、著者の状況(論文は初めてなど)や文章力によって、コメントを工夫するようにしました。論文に慣れておられない場合は、早めに参考になる論文を送ってあげるなどしました。文章力に課題がある場合は、遠慮せずに直してあげる方がいいと思いました。
- 厳密な言葉の選択
- 今回のように、特集テーマが決まっている場合は、その特集の趣旨との相違の判断は共同推敲のような形で確認することが必要なのではと考えます。